

(参考1) 主な英語の資格・検定試験

試験名	実施団体	受験人数	年間実施回数	成績表示方法	出題形式: 実施方式 (*1)	受験料
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	ケンブリッジ大学 英語検定機構	国内人数非公開 ※全世界では約250万人	2-3回	上初級~特上級(5つ) 合否、スコア(80-230)、グレード	L, R, W: 紙 S: ペア面接	PET(B1) 11,880円~ (*5) KET(A2) 9,720円~
実用英語技能検定	日本英語検定協会	約235.5万人 (H25実績)	3回	1級~5級 合否による表示 H27よりスコア併記予定	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進学基準研究機構(CEES)と共催	非公表	3回 (H27)	0-1400点	L, S, R, W: CBT	9,720円
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	約73万人 (H26実績)	2回	0-810点	L, R, W: 紙 (S): タブレット(*3)	3,080円 L, R, W (5,040円 L, R, W, S)
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、 ケンブリッジ大学英語検定機構 日本英語検定協会 等 ※全世界では240万人	約3万人 (H26実績)	約35回	1.0-9.0 (0.5刻み)	L, R, W: 紙 S: 面接	25,380円
TEAP	日本英語検定協会	約1万人 (H26実績)	3回	80-400点	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	15,000円
TOEFL iBT	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	非公表	40-45回	0-120点 (4技能を各0-30点で評価)	L, S, R, W: CBT	230USドル
TOEFL Junior Comprehensive	テスト作成: ETS 日本事務局: GC&T	非公表	2-3回	0-352点	L, S, R, W: CBT	9,500円
TOEIC	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC ※TOEICプログラム全世界700万人	約236.1万人 (H25実績)	10回	10-990点 (L, R各5-495点)	L, R: 紙	5,725円
TOEIC S&W	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC ※TOEICプログラム全世界700万人	約1.5万人 (H25 実績)	24回	0-400点 (S, W各0-200点)	S, W: CBT	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing *2: Wは1級・準1級、Sは3級以上 *3: Sはオプション *4: L/R, L/R/Wでも受験可能
*5: 実施試験センターにより異なることあり

(参考1) 主な英語の資格・検定試験の出題意図・語彙数 等

試験名	目的・出題意図	語彙数	国際通用性 ①実施国数 ②主な活用地域 ③海外団体との連携
Cambridge English (PET:CEFR B1)	英語圏における日常生活に必要なとされる実践的な英語力があるかを評価する	3,000語程度 (*1)	①約130か国 ②英国、欧州、オーストラリア、ニュージーランド ③CaMLA(米国ミシガン大学)、OET(豪州)等
実用英語技能検定 (2級: CEFR B1)	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	4,000語程度 (*2)	①約50か国 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等 ③アジア6地域7団体およびCRELLA(英国)
GTEC CBT	英語を使用する大学で機能できる(アカデミックな)英語コミュニケーション力を測る	3,000~6,000語程度 (CEFR C1まで)	②北米(ELS Educational Services)
GTEC for STUDENTS	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	3,000語以下 ※タイプによって異なる (CEFRB2まで)	
IELTS	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	5,000~6,000語程度(*2)	①約140ヶ国以上 ②EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アメリカ等
TEAP	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	2,000~5,000語程度 (タスクにより異なる) (*2)	③CRELLA(英国)
TOEFL iBT	高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。	(R) 3,000語で90.45%をカバー 5,000語で95.37%をカバー (L) 3,000語で96.22%をカバー(*3)	①約130か国以上 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)、非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)
TOEFL Junior Comprehensive	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する。	3,000語程度 98%の単語がセンター試験に出現(*4)	①8か国(実施国数拡大中、2技能については既に50か国以上)
TOEIC / TOEIC S&W	和文・英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションができるかという点を評価する。	4,000語以上 (*5)	①約150か国

*1: English Vocabulary Profile Wordsに基づいてカウントした概算 *2: BNC(British National Corpus) *3: BNC/COCA word-family lists <第1回連絡協議会資料より> *4: 2006年以降のセンター試験。グローバル・コミュニケーション&テストング独自調査(2014年)
*5: 外部リサーチャーが独自に行った調査結果「英検2級より多いがテレビ、ニュース番組よりは少ない」からの推計値

(参考1) 主な英語の資格・検定試験のCEFRとの関係性検証方法

試験名	CEFR検証方法	補足事項
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	・CEFRと共に開発（部分的にはあるが、CEFRはCambridge Englishをベースに設計された経緯あり）	・2015年より、Cambridge Englishスケール(スコア化)を導入
実用英語技能検定	・英検Can-doリストとCEFRとの比較 ・専門家によって構成されるパネルを中心として、①Basket法(*1) ②Modified Angoff法(*2)を使用して検証 ・EALTA(欧州言語テスト・評価学会)エキスパート研究者との共同研究 ・他試験結果(TOEFL PBT,iBT等)との比較	・スコア化(英検CSEスコア)導入 (CEFRとの対応付け、およびIRTを用いた各級の関係性よりスコア化)
GTEC CBT	・実際のGTEC CBT受験者によるCEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証 ※科学研究費補助金 基盤研究(A)における「CEFR-J研究開発チーム」の「CEFR-J」デスクリプトを用いて関連づけ調査を実施	
GTEC for STUDENTS	・GTEC for STUDENTSとGTEC CBTのスコアの関連性を前提とし、上記研究内容と結び付けることにより検証。	
IELTS	・有識者によるベンチマーキング ・テスト結果使用者等による関係者からのフィードバックをもとに検証	
TEAP	・Can-do アンケートによるCEFRとの比較 ・独立研究機関(CRELLA)との共同研究 ・他試験結果(TOEFL ITP,iBT等)との比較	
TOEFL iBT	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・5,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEFLスコアレベルに関するフィードバックも活用	
TOEFL Junior Comprehensive	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・15か国18名の有識者による検討、2技能テストのスタディとの検証も実施	
TOEIC / TOEIC S&W	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討、100,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用	

*1: Basket法 「(問題に対して)CEFRのどのレベルにある受験者であればこの問題に正解できますか?」という分析手法

*2: Modified Angoff法 「(問題に対して)CEFRの各レベルに相当する受験者が100人いるとして、何名がこの問題に正解できるか?」という分析手法

(参考2) 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられるなどしている。

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)			8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400	7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>

http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS Webサイトに近日公開予定

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>

<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より

TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>

「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

（参考3）生徒の英語力に関する目標設定について

◆ 第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）（抜粋）

成果目標5（社会全体の变化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成）

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力※を備え、社会全体の变化や新たな価値を主導・創造するような人材、社会の各分野を牽引するリーダー、グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材、とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上、海外留学生数の飛躍的な増加、世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

※能力の例：国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としてのアイデンティティ、創造性など

【成果指標】

<グローバル人材関係>

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

②英語教員に求められる英語力の目標（英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点程度以上）を達成した英語教員の割合（中学校：50%、高等学校：75%）

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について（H26年9月26日：英語教育の在り方に関する有識者会議）報告（抜粋）

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月14日閣議決定）において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。これまでに設定されている英語力の目標だけでなく、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT 60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

(参考4) 英語4技能資格・検定試験の活用事例

◇生徒・学生の英語力向上における活用例

<高校の例>

- > ○○高等学校
コミュニケーション活動を重視した授業において、英検の過去問題を活用。生徒の意欲を引き出す。受験前には、英語科教員とALTで面接指導も実施。
- > ○○高等学校
スピーチコンテストや短期留学等の取組を進める中で、英語力向上の目標として資格・検定試験を活用

<大学の例>

- > スーパーグローバル大学等事業 採択大学
入学時から卒業時における目標を設定し、定期的にTOEFL等の試験を受け、卒業時には、実践的なコミュニケーションが可能グローバル人材を育成
- > ○○大学
大学で学習する際に必要とされる英語運用能力を正確に測定するテストを導入し、基準点を設け、入学者選抜の際にすると共に、入学後の習熟度別クラス編成にも活用することで、英語力向上のためのきめ細かな指導を実施

◇入試における換算方法等（例：出願要件、みなし満点、点数加算等）の例

<いわゆる「みなし満点」>

- > ○○大学（一般入試）
TOEFL iBT71点以上
TOEFL PBT530点以上
英検準1級
IELTS 4技能6.5以上のスコアまたは等級を所持している者については、大学入試センター試験の英語科目を満点とし換算して、合否判定を行う

<出願要件の一部、英語試験免除>

- > ○○大学
【自己推薦入試等：免除】
TOEFL68点以上（経済、商学関係）
【英語運用能力特別試験：出願要件】
TOEFL68点以上
（法学・政治学、国際関係）
- > ○○大学（一般入試）
英検2級以上：英語学力試験を免除

<点数加算の例>

- > ○○大学
TOEFL48点以上 5点
61点以上 10点
79点以上 25点
100点以上 50点
- > ○○大学
英検2級以上 10点
英検準2級 8点
英検3級 6点
- > ○○高等学校
推薦入試において英検3級以上で加算

<高校入試の例>

- > 大阪府における取組
入学者選抜においてTOEFL iBT、IELTS、英検のスコア等を一定の得点に換算し、学力検査の英語の得点と比較して高い方の得点を学力検査の得点とする（平成29年度より開始）

連絡協議会設置要綱

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会の設置について

平成26年11月25日
初等中等教育局長決定
高等教育局長決定

1 趣旨

生涯にわたる英語学習を通じた英語力向上のため、「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能（以下、4技能という。）の評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について検討・協議を行う、学校関係者、専門家、英語の資格・検定団体、経済団体等からなる「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」（以下、「連絡協議会」という。）を設置する。

2 役割

- ・学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について調査し、検討・協議を行うこと。
- ・学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について関係団体間の必要な申合せを行うこと。
- ・学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用に関し、関係団体等と必要な調整を行うこと。
- ・その他、上記に関係する事項を取り扱うこと。

3 検討事項

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関し、次の事項を検討する。

- ・英語の4技能の評価及び入学者選抜における改善の方策
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する適切かつ効果的な情報提供の在り方
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する指針の検討・策定
- ・その他、上記の実施に当たり必要な事項

4 作業部会

連絡協議会には、専門事項を調査・検討するため、作業部会を置くことができる。

5 任期

平成26年11月25日～平成27年3月31日とする。

6 その他

- ・本会議に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において、高等教育局大学振興課の協力を得て処理する。
- ・その他会議の運営に関する事項は、必要に応じて座長に諮って定める。

連絡協議会設置要綱

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する連絡協議会委員

【50音順】

青山 智恵 ケンブリッジ大学英語検定機構日本支部長
荒井 克弘 独立行政法人大学入試センター試験・研究統括官
安藤 益代 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
(IIBC) IP事業本部長
石鍋 浩 足立区立蒲原中学校校長
梅澤 直臣 株式会社グローバル・コミュニケーション&テストイン
グ取締役
圓月 勝博 同志社大学文学部教授・学部長、
一般社団法人日本私立大学連盟教育研究委員会委員
大塚 雄作 独立行政法人大学入試センター試験・研究統括官
奥田 吾朗 大阪国際大学短期大学部理事長、
日本私立短期大学協会副会長
尾関 直子 明治大学国際日本学部教授
清原 正義 公立大学法人兵庫県立大学理事長兼学長、
一般社団法人公立大学協会副会長
日下部 治 独立行政法人国立高等専門学校機構
茨城工業高等専門学校校長
塩崎 修健 公益財団法人日本英語検定協会教育事業部部長代理
島村 元紹 島村楽器株式会社代表取締役会長、
日本商工会議所教育専門委員長
新庄 恵子 港区立高陵中学校校長、全日本中学校長会事業部長
高橋 基之 東京都立目黒高等学校校長、全国高等学校長協会会長

○ …座長

○ 多田 幸雄 株式会社双日総合研究所代表取締役社長
長崎大学経済学部客員教授
田原 正夫 公立大学法人首都大学東京 東京都立産業技術高等専門
学校校長、全国公立高等専門学校協会会長
内藤 裕紀 株式会社ドリコム代表取締役社長、
一般社団法人新経済連盟教育改革PTリーダー
中村 慶久 岩手県立大学盛岡短期大学部学長、
全国公立短期大学協会副会長
根本 斉 国際教育交換協議会 (GIEE) 日本代表部TOEFL事業部長
平方 邦行 工学院大学附属中学校・高等学校校長、
日本私立中学高等学校連合会常任理事
立教大学グローバル教育センター長
松本 茂 楽天株式会社代表取締役会長兼社長
三木谷 浩史 国立大学法人東京工業大学学長、
三島 良直 一般社団法人国立大学協会入試委員会委員
三宅 龍哉 富士通株式会社常務理事、
一般社団法人日本経済団体連合会教育問題委員会企画
部会長
村田 圭治 近畿大学工業高等専門学校校長、
日本私立高等専門学校協会理事
安河内 哲也 一般財団法人実用英語推進機構代表理事
山崎 昌樹 株式会社ベネッセコーポレーション学校本部長
吉田 研作 上智大学言語教育研究センター教授
四方 ゆかり グラクソ・スミスクライン株式会社 取締役、
公益社団法人経済同友会幹事・学校と経営者の交流活動
推進委員会副委員長

<オブザーバー>

初等中等教育局 高校教育改革PT
初等中等教育局 児童生徒課
初等中等教育局 国際教育課
高等教育局 高等教育企画課
高等教育局 大学振興課
高等教育局 専門教育課